

＜活動名＞ 高齢者の「生きがい・やりがい」につながる協働活動を通じた  
学校教育の充実と地域等の活性化の推進

山口県立萩総合支援学校

## 1 はじめに

北に日本海を望み、城跡や武家屋敷の町並みが残る「萩城下町」や、日本の近代化を進めた「萩反射炉」「恵美須ヶ鼻造船所跡」「大板山たたら製鉄遺跡」、多くの志士を輩出した「松下村塾」などの世界遺産と由緒ある歴史を感じる萩の地に開校して以来、本校は昨年度三十周年を迎えた。

この間、身近な地域で専門的な教育を受けることができるよう、「長門市立深川小学校」内に「萩総合支援学校長門分教室」が開設されるなど、長北地域の特別支援教育のセンター的役割を担ってきた。

## 2 研修の目的

現在、少子高齢化や核家族化、地域のつながりの希薄化など、社会環境が大きく変化する中、子どもがいろいろな世代の人と触れあう機会が少なくなり、体験活動の不足や社会性・規範意識の低下、自己肯定感の低下等、子どもの育ちに関する様々な課題が指摘されるなか、学校と家庭・地域が一体となった社会総がかりによる連携・協働する取組を進めていくことがより一層求められている。

こうした中、特別支援学校では、障害のある子どもの自立と社会参加に向けて、就労意欲の向上やコミュニケーション能力の育成等が課題となっており、企業等の専門家等との連携による授業実践や販売活動、地域との連携・協働による特産物を活用した商品開発、多くの方々との日常的な交流を通じた実践的・専門的な職業教育、地域に開かれた教育活動の展開が求められている。

一方、地域においては、少子高齢化とともに「長寿社会」を迎え、経験豊富な高齢者が増加傾向にあるものの、これまでの経験や培ってきた専門性を披露する場や地域のコミュニティとなる憩いの場が不足している。高齢者が、それまでの長い人生の中で培ってきた豊かな知識・経験を生かすことができる機会や場所を見だし、地域社会の担い手として活躍することは、高齢者の生きがいにつながるばかりでなく、活力ある社会の形成にもつながるものである。

今後、ますます少子化が進み、高齢化率が高まる萩市において、様々な社会の課題を解決していくためにも、より一層多くの経験豊富な高齢者のマンパワーは、地域の活性化や特別支援学校の教育の充実に向けた重要な視点である。

このため、本事業の活用により、特別支援学校（本校・分教室）と社会福祉協議会や老人クラブ等との連携・協働による「地域・学校協働活動」を通じて、本校教育の充実と高齢者のコミュニティとなる憩いの場づくり・「生きがい・やりがい」づくりを一層促進し、地域・学校の差し迫った社会的・地域的な課題解決と地域の活性化等に取り組むたいと考えた。

### 3 研修の概要

#### (1) 地域等との連携・協働活動について検討・協議

- ・老人クラブや地域、学校における考え方、思いの共有
- ・地域のニーズと学校のニーズを踏まえ、生きがいややりがいにつながる協働活動や地域のコミュニティーとなる憩いの場づくりについて検討
- ・協働活動の具現化に向けた情報収集 等

#### (2) ゲストティーチャーの参画による授業実践

- ①ジョイントネット萩「草の芽」による読み聞かせ
- ②陶芸家による陶芸教室
- ③後小畑寿会老人クラブによる昔遊び
- ④その他
  - ・社会福祉協議会、老人クラブとの連携による「夏みかんCafé」
  - ・老人クラブとの連携による縫製教室・花壇作り
  - ・大学と連携した清掃活動
  - ・大学や老人クラブと連携した合同避難訓練
  - ・CS通信「はぎのーと」による地域への情報発信

### 4 具体的な取組内容

#### (1) 地域等との連携・協働活動について検討・協議

地域等との協働活動を実施するに当たり、地域等の状況を把握するため、社会福祉協議会や老人クラブとの協議を通じて、学校ができる活動や地域が求めている活動・ニーズ等の調整、情報収集を行うとともに、コロナ禍でできる活動について情報を共有した。



#### (2) ゲストティーチャーの参画による授業実践

##### ①ジョイントネット萩「草の芽」による読み聞かせ

地域の方に来校していただくことにより、挨拶や聴くときのマナーなど、社会性を育むことができた。大型絵本やタペストリー、人形劇など、様々な形で読み聞かせをしていただき、物語の楽しさを感じることができた。対面で読み聞かせをしていただくことで、話者とのやり取りを楽しみながらお話を聞くことができた。



## ②陶芸家による陶芸教室

萩市の伝統文化であり観光産業である萩焼の創作体験を通して、地域の伝統に触れ、自分の住んでいる地域の事をより深く知ることができた。

自分で創作する活動を通して、子ども達の独創性を育み、完成させることで達成感を味わうことができた。また、できあがった作品をお互いに鑑賞し、感想を言い合うことで自己有用感をもつための一助となすことができた。



## ③後小畑寿会老人クラブによる昔遊び

地域の方との交流を通じて、様々な遊びを学ぶことができ、人と関わることの楽しさも学ぶことができた。



## ④その他

- ・社会福祉協議会、老人クラブとの連携による「夏みかんCafé」



- ・老人クラブとの連携による縫製教室・花壇作り



- ・大学と連携した清掃活動



- ・大学や老人クラブと連携した合同避難訓練



- ・CS通信「はぎのーと」による地域への情報発信



## 5 成果と課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全国の学校の休校、新しい生活様式等、これまでに経験したことがない状況の中、社会福祉協議会や老人クラブ会等の地域や大学等との協働活動、外部専門家の招聘による授業実践を通じて子どもたちの学習の幅を広げ、人との触れ合いの大切さや接遇マナーの習得などを着実に進めることができた。また、外部人材の参画による授業実践は、教員の働き方改革の1つとして本校教育の充実に資することができた。

今後も、協働活動や交流活動を一層推進することにより、障害や障害のある子どもへの理解を促進するとともに、これまでの経験や知識、技術をもった地域の方の活躍の場づくり、コミュニティとなる憩いの場づくりにも貢献できると考える。

コロナ禍ではあるものの、地域等との協働活動をより発展・充実させ、地域貢献等を通じた、生徒の自立と社会参加の推進、共生社会の実現に向けて一層推進していきたい。